

ライブ配信 日程表

8:30			
		8:50-8:55 開会の辞	
9:00	9:00-9:45	モーニング教育セミナー 2 定位放射線治療に必要な放射線生物学 共催:株式会社日立製作所	座長: 森 美雅 演者: 芝本 雄太
9:30			
10:00	10:00-10:45	ディベートセッション 1 聴神経腫瘍に対する手術と定位放射線治療の controversy 共催:日本特殊陶業株式会社	座長: 周藤 高 樋口 佳則 ディスカッサント: 岩井 謙育 河野 道宏 長谷川俊典
10:30			
11:00	11:00-11:45	ディベートセッション 2 AVM に対する治療戦略 共催:日本メドトロニック株式会社	座長: 松村 明 永野 修 ディスカッサント: 小林 英一 小南 修史 川岸 潤
11:30			
12:00	12:00-13:00	ランチョンセミナー 1 Global Access to Radiosurgery 共催: Zap Surgical Systems, Inc.	座長: 丸山 隆志 林 基弘 演者: John R. Adler, Jr.
12:30			
13:00			
	13:15-14:45	ディベートセッション 3 多様化する脳転移治療と定位放射線治療 共催:アキュレイ株式会社	座長: 青山 英史 井内 俊彦 ディスカッサント: 長谷川正俊 中洲 庸子 原田 英幸 四方 聖二 野村竜太郎
13:30			
14:00			
14:30			
15:00	15:00-16:00	ランチョンセミナー 2 HIMAC から量子メスへ -量子メスマイクロサージェリー化プロジェクト- :日本未来医療を見据えたQSTの新たな挑戦と展望 共催: 東芝エネルギーシステムズ株式会社	座長: 石川 仁 演者: 中野 隆史 林 基弘
15:30			
16:00			
	16:15-16:55	アフタヌーンセミナー 4 MR 画像誘導による定位放射線治療 共催:伊藤忠商事株式会社	座長: 伊丹 純 演者: 井垣 浩
16:30			
17:00			
		17:00-17:15 次回・次々回予告・閉会の辞	
17:30			

ライブ配信 プログラム

5月22日(金)

8:50-8:55 開会の辞

挨拶： 芹澤 徹 (医療法人社団 高恵会 築地神経科クリニック)

9:00-9:45 モーニング教育セミナー2

座長： 森 美雅 (医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院 放射線治療科・高精度放射線治療センター)

定位放射線治療に必要な放射線生物学

芝本 雄太 (名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学分野)

共催：株式会社日立製作所

10:00-10:45 ディベートセッション1

聴神経腫瘍に対する手術と定位放射線治療の controversy

座長： 周藤 高 (独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 脳神経外科)
樋口 佳則 (千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学)

ディスカッサント： 岩井 謙育 (大阪市立総合医療センター 脳神経外科)
河野 道宏 (東京医科大学 脳神経外科)
長谷川俊典 (小牧市民病院 脳神経外科・ガンマナイフ科・医療の質・安全管理室)

ガンマナイフが日本に導入され30年が経過し、聴神経腫瘍の治療オプションのひとつとして定位放射線治療の有用性が確立された。治療法を選択する上で、大きさ、年齢および有効聴力の有無、患者の嗜好などが重要な因子となる。開頭術では術者の技量、定位放射線治療では治療計画、照射線量が治療結果に影響するため、術者により選択基準が異なることが予想される。本ディベートセッションでは、治療法の実施について意見が分かれ得る症例をディスカッションすることで、現在の開頭術と定位放射線治療の両者の立場で情報を共有し、未来へとつなげたいと考えている。

共催：日本特殊陶業株式会社

11:00-11:45 ディベートセッション2

AVM に対する治療戦略

座長：松村 明（茨城県立医療大学）
永野 修（千葉県循環器病センター ガンマナイフ治療部）

ディスカッサント：小林 英一（千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学）
小南 修史（日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科）
川岸 潤（古川星陵病院 鈴木二郎記念ガンマハウス）

これまで、塞栓術後の定位放射線治療成績は不良と考えられてきた。しかし、血管内治療の進歩、Onyx など新しい塞栓物質の登場により脳動静脈奇形 (AVM) の治療戦略が変化しつつある。本ディベートセッションを通して、実際の症例を提示しながら、AVM 治療での定位放射線治療と塞栓術の併用、定位放射線の単独治療、さらに開頭術の優劣など、治療方法の選択について現時点におけるさまざまな治療アプローチがあることを共有したい。特に塞栓術の併用の可否、併用する場合のタイミングや塞栓物質の選択などを中心に症例ごとに検討する。

共催：日本メドトロニック株式会社

12:00-13:00 ランチョンセミナー1

座長：丸山 隆志（東京女子医科大学 脳神経外科）
林 基弘（東京女子医科大学 脳神経外科・ガンマナイフ室/先端生命医学研究所 先端工学外科学分野）

Global Access to Radiosurgery

John R. Adler, Jr. (Stanford University / Zap Surgical Systems, Inc.)

共催：Zap Surgical Systems, Inc.

13:15-14:45 ディベートセッション3

多様化する脳転移治療と定位放射線治療

座長：青山 英史（北海道大学大学院医学研究院 放射線科学分野 放射線治療学教室）
井内 俊彦（千葉県がんセンター 脳神経外科）

ディスカッサント：長谷川正俊（奈良県立医科大学 医学部 放射線腫瘍医学講座）
中洲 庸子（滋賀医科大学 脳神経外科学講座/静岡県立静岡がんセンター）
原田 英幸（静岡県立静岡がんセンター 放射線・陽子線治療センター 放射線治療科）
四方 聖二（社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 がん集学治療センター 放射線治療部門 ガンマナイフセンター）
野村竜太郎（医療法人社団 康心会 茅ヶ崎中央病院 サイバーナイフセンター）

脳転移に対する治療として定位放射線治療が大きな役割を担っているが、適応とする病巣の大きさや数に関しては施設間で差がある。また、最近では従来の定位放射線治療に加え、ICON によるガンマナイフの分割照射や、リニアックを用いた single isocenter/multi-target 照射の出現など、定位放射線治療の手段も多様化している。本ディベートセッションでは実際の症例に対する治療法を検討する中で、様々な治療戦略があることを理解し、明日からの臨床の糧としたいと考えている。

共催：アキュレイ株式会社

15:00–16:00 ランチョンセミナー2

座長：石川 仁（国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST 病院）

HIMAC から量子メスへ – 量子メスマイクロサージェリー化プロジェクト – ：日本未来医療を見据えた QST の新たな挑戦と展望

中野 隆史（国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門）

林 基弘（東京女子医科大学 脳神経外科・ガンマナイフ室／先端生命医科学研究所 先端工学外科学分野）

共催：東芝エネルギーシステムズ株式会社

16:15–16:55 アフタヌーンセミナー4

座長：伊丹 純（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 放射線治療科）

MR 画像誘導による定位放射線治療

井垣 浩（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 放射線治療科）

共催：伊藤忠商事株式会社

17:00–17:15 次回・次々回予告・閉会の辞

次回予告：茂松 直之（慶應義塾大学 医学部・医学研究科 放射線科学（治療）教室）

次々回予告：齊藤 延人（東京大学 医学部 脳神経外科）

閉会の辞：芹澤 徹（医療法人社団 高恵会 築地神経科クリニック）